

令和8年度麦類情報 第4号

令和8年10月15日 発行

福島県会津農林事務所喜多方農業普及所

ポイント○排水対策○除草対策○追肥

1 排水対策

- ・ 額縁明きょを必ず施工し、ほ場内に停滞水がないよう速やかに排水口へ水が流れるようにしましょう。

2 除草対策

- ・ 雑草の発生は収量と収穫作業能率の低下につながるため、適期に除草剤の散布を実施しましょう。



図1 排水口への水路

(1) 播種直後

- ・ 土壌処理剤を必ず散布しましょう。土壌処理剤は土の表面に薬剤の層を形成し、これから出てくる雑草を抑えるものです。そのため、ほ場に残っている雑草は耕耘等で対処して、雑草等がない状態で散布しましょう。(図2)



図2 播種直前のほ場の様子

(2) 越冬前

- ・ 後発の雑草の発生がみられた場合、雑草1葉期を目途に散布しましょう。雑草が小さいうちでないと効果が期待できないので、適期に散布を実施しましょう。

表1 主な土壌処理剤

薬剤	適用雑草名	使用時期	使用量
ゴーゴーサン細粒剤 F	一年生雑草	麦類 播種後出芽前(雑草発生前)	5～6 kg/10a
ゴーゴーサン乳剤	一年生雑草	麦類(小麦を除く): 播種後出芽前(雑草発生前)	300～500ml/10a
		小麦: は種後(雑草発生前)～小麦2葉期(イネ科雑草1葉期まで)	
リベレーターフロアブル	一年生雑草	小麦、大麦(秋播栽培) 播種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml/10a

(3) 越冬後

- ・ 越冬後は広葉雑草の除草が対象となります。ほ場に広葉雑草が見られる場合は、茎葉処理剤を散布しましょう。なお、使用時期は小麦穂ばらみ期までです。

表2 主な茎葉処理剤

薬剤	適用雑草名	使用時期	使用量
アクチノールB乳剤	一年生広葉雑草	麦類 穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	100～200 ml/10a
バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	一年生雑草 (イネ科を除く)	麦類(小麦を除く) 生育期 但し収穫90日前まで	100～200 ml/10a
		小麦 生育期 但し収穫45日前まで	

3 幼穂形成期の追肥(穂肥)

- ・ 1穂粒数と穂数の確保を目的に施用し、収量確保に有効となります。なお、融雪水などの停滞水がない状態で追肥を実施しましょう。

表3 幼穂形成期の追肥時期と施肥量

	時期(幼穂形成期)	窒素施肥量(N/10a)	主な肥料の例	
麦類	3月中旬～4月上旬	3 kg/10a	硫酸(大粒)(N成分21%)	施肥量 15 kg/10a
			尿素(N成分46%)	施肥量 7 kg/10a

★令和8年9月1日～10月31日は農作業安全運動重点推進期間です。
ブレーキ連結の確認やヘルメット着用等を徹底して事故を防ぎましょう。

○本情報の内容や麦類に関するお問い合わせはこちらへどうぞ。

会津農林事務所喜多方農業普及所 TEL: 0241-24-5743